

大垣市金生山化石館

化石館だより



コラム

赤坂石灰岩の床板サンゴ

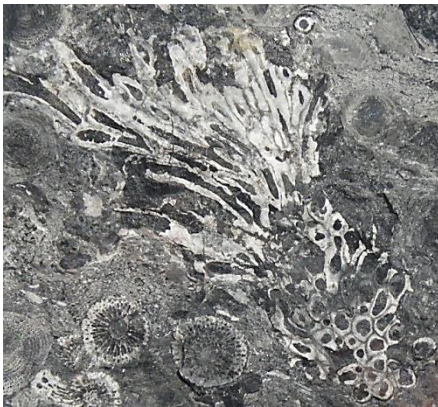
金生山から知られている化石サンゴには、ワーゲノフィルムに代表される四放サンゴの仲間の他に、もう一つ床板サンゴの仲間があります。

床板サンゴ類は原始的なサンゴの仲間で、筒をたくさん束ねたような形をしています。この筒にはところどころに竹の節のような仕切り板が見られ、この様な仕切りをもつことから床板サンゴの名が付けられています。床板サンゴの仲間には、ハチノスサンゴの名で知られている *Favositidae*、クサリサンゴの *Halysitidae* など、6つの科があります。



金生山では2種類の床板サンゴが知られていますが、床板サンゴの産出は稀で、シュードロミンゲリア (*Pseudoromingeria kotoi*) が僅かに見

ハチノスサンゴ 飛驒：福地



シュードロミンゲリア

つかる程度です。*Pseudor*とは「偽の」

という意味で、その形態がデボン紀に栄えたロミンゲリア属に似ていることから名付けられています。しかしロミンゲリア属はシルル紀からデボン紀に存在したサンゴで、石炭紀の初めに絶滅してしまいました。シュードロミンゲリアは、管サンゴ (*Auloporidae*) の仲間と考えられており、他の管サンゴ類とは形態が異なることから、1941年に Yabe and Sugiyama によってシュードロミンゲリア (*Pseudoromingeria*) 属という新属が提唱されたのです。シュードロミンゲリア属は、長らくコトイ (*kotoi*) という1属1種でしたが現在はオニシイ (*onishii*) が加わり2種となっています。

金生山からはもう1種の床板サンゴであるシュードファボシテス (ニセハチノスサンゴ) が知られていますが、これについては次のような興味深い話が知られています。

金生山を訪れた外国人地質学者の一人にカール・ゴツェと言うドイツ人の学者がいます。ゴツェは1881年にナウマンの後任として東京大学に招かれ、自ら金生山を訪れて化石を採集し、1884年に金生山産の化石リストを発表しています。これは、ギンベルによるパラフズリナ・ジャポニカの記載から10年後のことです。

彼の化石リストには、*Favosites* (ハチノスサンゴ) が含まれていますが、ファボシテスは古生代の前半に栄えた床板サンゴであり、古生代の終りに堆積した金生山の赤坂石灰岩から産出するはずはないと疑われてきました。この化石はゴツチェの発見以後、誰一人採集したものが無く、矢部・早坂両博士はミケリニアというハチノスサンゴから派生した別のサンゴではないかとされました。



旧名：シュードファボシテス
新名：アカサカポーラ・マストミイ

その後、1962年に地元の方で化石を趣味にしておられた小宅さんが、珍しい化石を見つけたとって金生山化石館を訪ねられました。地元の化石愛好家はこれをファボシテスだと考えて、金生山化石館を訪れた数名の学者に尋ねたのですが、皆ファボシテスでは無いと否定されコケムシであろうと同定されました。そこでコケムシとして展示することにしたところ、今度はコケムシを研究しておられた坂上澄夫博士からコケムシでは無いとの指摘を受け、結局ラベルを作成することもできずに展示することになったのです。

ちょうどその頃、「原色化石図鑑」(保育社)作成のため金生山化石館を訪れた浜田隆士博士がこの無名の化石に目を止められ、原色化石図鑑には「シュードファボシテス」として掲載され、命名に至った経緯についても解説が付記されました。その後、この化石は長らく正体不明のままシュードファボシテス (ニセハチノスサンゴ) とされてきましたが、2009年、兒子修司博士によってハチノスサンゴの仲間では無く、ローメリア科の新属新種 *Akasakapora*

masutomii として記載されることになったのです。

この化石は、赤坂石灰岩の上部層から産出しており、ローメリア科としては最後の生き残りと考えられます。北米のカリフォルニアからはアカサカポーラに似たベイハイム属のサンゴが知られていますが、これらのサンゴは共に、パンサラサという古い太平洋の中央部にあったサンゴ礁で生活していました。その後の海洋プレート移動で両者は東と西に分かれて移動し、現在の位置に運ばれたと考えられています。金生山における化石の発見が地球史にまでつながっていくのは興味深いですね。

(文責：高木洋一)

お知らせ

化石講演会

「球状コンクリーションの理解と応用」

～自然に学ぶ応用地質学～

期日： 令和3年2月11日(木・祝)

場所： 大垣市サイトピアセンター サイトピアホール(2F)

講師： 吉田英一 名古屋大学博物館 教授



金生山のノジュール

問い合わせ： 大垣市金生山化石館 電話 (0584) 71-0950 (ファックスも同じ)

Email kasekikan@city.ogaki.lg.jp